

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト> Fukui advanced companies' try

〔特集〕 つながる、ひらめく、ふくいDX。
～クマンドウデジタルアライブ2026～



vol.79

AI画像処理検品システムを導入。 DXで品質面の優位性を図る



インテリア業界で使用する細幅織物資材などの製造・販売を手がける、(株)米澤物産。昨年12月、令和7年度ふくいDX加速化補助金を活用し、AI画像処理の自動検品システムを導入しました。代表取締役の米澤稔喜氏とプロジェクトマネージャーを務めた品質管理・R&D室 室長の河上敬則氏に、導入の経緯や展望について伺いました。



代表 米澤 稔喜氏



河上 敬則氏

社内で一番DXを取り入れやすいところとして、米澤社長が着目したのはカーテンの芯材に使われる細幅織物の検査工程でした。「人が目視で傷や汚れなどの不良品を検品するため、見逃しのリスクが高かった。A

DXの導入で課題を解決
品質面で他社と差別化を

住宅着工数の減少や原材料費の高騰など、インテリア業界を取り巻く環境は厳しさを増しています。そうしたなか、米澤社長は「3年程前から、人手不足や作業の属人化など、AIを使って自社の課題解消に取り組めないか」と思い始めました」とDX導入のきっかけを語ります。

同社HPはこちら！



DATA

株式会社米澤物産

所在地：福井市八重巻中町1-13

代表者：米澤 稔喜

事業内容：細巾織編物の製造卸売業

連絡先：0776-56-0135

URL：https://www.yonezawa-bussan.jp/



インテリア、アパレル、産業資材など幅広く手がける

Iを使った画像処理で不良品を出さない仕組みを作ること、まずは競合他社に品質面で優位性を発揮し、差別化を図りたいと考えました」と説明します。

しかし、AIを使った検品システムは難易度が高く、河上氏は「大阪や神奈川などのIT企業に相談しましたが、性能やスピードの面などでうま

くいきませんでした」と振り返ります。その後、福井商工会議所の商談会で京都大学のベンチャー企業と出会い、既存の検査工程にAIの画像処理を組み込むシステムの構築が可能に。同社は、当センターからの紹介でふくいDX加速化補助金に申請し、米澤社長の指揮のもと、河上氏がプロジェクトマネージャーとな

Contents

Web版はコチラ！

表紙 ふくいDXオープンラボ



特集 つながる、ひらめく、ふくいDX。
～クマンドウデジタルアライブ2026～

- 1 【CASE①】(株)米澤物産
- 3 クマンドウデジタルアライブ2026のご紹介
- 5 【CASE②】(株)CCイノベーション
- 6 【CASE③】(特非)エル・コミュニケーション
- 7 今月の注目企業 フェニックス(株)
- 9 よろず支援拠点 経営Q&A
- 10 総合相談窓口からのご案内
- 11 ふくいDXニュース
- 12 こんにちは！ FOIPです。
- 13 グッドデザインシンキング
- 14 インフォメーション／編集後記

Web限定

新スポット巡礼 古民家サウナ ととの居



モニター上に不良箇所が赤色で示される

って、若手を中心とした新システム開発・導入のプロジェクトチームを立ち上げました。

画像の蓄積と学習を重ね人間に近い判断力を習得

既存の検査工程は、製造されたカーテン芯地の巻取と同

時に、担当者が目視で検品作業を行うものでした。新たな自動検品システムでは、独自の外観検査AI技術を用い、巻取工程の背面にカメラと照明、担当者のサイドに専用パソコンとタッチパネルモニターを設置。画像上の不良箇所

に担当者がタッチしてAIに学ばせるとともに、自律的なオートノマス学習機能で不良検出精度を向上させています。

「傷や汚れなど不良を察知すると、モニターに赤色で表示され、同時に巻取が停止します。その後、担当者が不良を確認・処理してから動作を再開させています」と米澤社長。新システムのテスト時に悩まされたのが、良品まで不良と判定する「AIの過検出」だったといいます。「柄かそ

うでないものかの繊細な判別で、当初すべてが不良とされ、モニターが真っ赤になりました」と河上氏は苦笑い。より細かい判断ができるよう個別に設定を変え、画像データの蓄積と学習を繰り返し改良していきました。

そうして約3ヶ月という短期間で、AI画像処理による自動検品システムの導入を実現。「新システムが稼働して9ヶ月ですが、今では人間に近い判断ができるようになりました。ただ、まだ対応する

商品は一部に限られ、残りの品目も就業後の時間を使ってAIに学ばせるところです」と米澤社長は語ります。

他部署でもDX化を推進常に挑戦し成長を目指す

「今回、AIの導入で検査工程が向上することで、前工程の製造などに携わる社員の意識も上がるなど、新しいものを取り入れることによりいろんな影響が広がっています」と、米澤社長は活気づく

社内の手応えを感じています。さらに、社会課題のひとつとして、「女性活躍や外部人材の活用」にも言及。「DXは男女の区別なく、誰でも取り組めるもの。もし人手不足により海外の方を雇用することになった場合も、対応できると捉えています」と未来を見据えます。

「繊維業界はより一層AIによる工場のDX化を進めていかないと取り残されてしまう」と、表情を引き締める米澤社長。さらなる「品質強化

の横展開」として、他部署でのDX化推進も視野に入れています。常に新しいものに挑み、成長を目指す同社のスタンスは、「74年前に産元商社として創業し、細幅織物製造に進出した祖父の時代から脈々と引き継いでいるものかもしれません」とほほ笑みま

す。「今後は、インテリア資材だけでなく産業資材にもどんどんチャレンジし、時代に合わせたものづくりを進めていきたい」と展望。急速に進化するAIの技術とともに、新しい可能性を広げていきます。



ブラインド資材の検品にもAI導入を検討中



デジタルを学ぶ！ デジタルで遊ぶ！ 3日間

デジタルをテーマに
「くまンドウ デジタルライブ2026」を開催します！

デジタルの“いま”を紹介するイベント「くまンドウ デジタルライブ2026」を、今年は10月8日(木)～10日(土)の3日間にかけて、福井県産業情報センターで開催します。

「くまンドウ デジタルライブ」となってから3回目の今年は20を超えるセミナーや体験イベントなど、学んで遊べるイベントを用意して、皆さまのお越しをお待ちしております！

イベント前半「ビジネスSIDE」の8日(木)・9日(金)は、ビジネスでのデジタル活用に役立つ講演会やセミナーを中心に開催し、イベント後半「おもしろSIDE」の10日(土)は親子で楽しめるプログラミングやデジタルアートの体験会などがあります。各イベントは一部を除き、予約優先制ですので、お早めにお申し込みください。

名 称

くまンドウ デジタルライブ2026 [くまデジ]

参加
無料

会 期

令和8年10月8日(木)～10日(土)

会 場

福井県産業情報センター (坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16)

内 容

デジタルやDXに関連したセミナー・講演会やワークショップ、体験会など

- デジタルを学ぶ講演会・セミナー
- プログラミングやアプリ作成などを学ぶワークショップ
- サイバーリスクやSNS活用の知識を修得できる研修会
- 生成AIやVR体験コーナー
- デジタルで遊ぶeスポーツやデジタルアート体験など
- VTuberやキッチンカーもやってくる

開催イベントの一例をご紹介します！いずれも【参加無料】

会場のみ

基調講演

10/8
(木)

これからのAI社会で、10年後に「生き残る会社」と「消える会社」

～最新AI事例から読み解く、地方の中小企業の勝ち筋～

講師 (株)ミジンコ 代表取締役／フューチャリスト (未来予測士) 友村 晋 氏

AIの進化により、仕事・社会・経営の前提は大きく変わり始めています。
国内外のAI事情やロボティクスとAIがもたらす変化、日本企業におけるAI活用の課題などを踏まえながら、10年先を見据え、AI時代に中小企業が何を捉え、どのように変化を成長の機会につなげていくべきか——
未来予測の視点から考えていきます。



10/9
(金)

ビジネスSIDE

企業経営や業務で活用できるITツール・デジタル技術のセミナー等を集中開催！

セミナー

AIが社内データと“接続”する時代に、どう備えるか ～広がるAI活用とシステム連携、その可能性と新たな課題～

講師 (株)ZetaX 共同代表取締役／
東京大学在学中 柳澤 京佐 氏

ワークショップ

生成AIを活用したアプリ作成体験ワークショップ ～Googleスプレッドシートと連携して学ぶ、アプリ作成の第一歩～

講師 (株)ドモドモコーポレーション 遠田 幹雄 氏
自分でWebアプリを作ってみませんか？

セミナー

中小企業における採用につながるSNS活用

主催 福井県中小企業診断士協会
講師 合同会社CLEMA (クレマ) 代表 西村 星彌 氏

セミナー

税務DXの最前線

～税務行政の将来と企業の生産性向上戦略～

主催 金沢国税局
講師 金沢国税局 総務部 企画課 課長 佐々木 裕一 氏
国税庁が描く「税務行政の将来像」と、その最新情報をご紹介します。

10/10
(土)

おもしろSIDE

一般・学生の方や親子で参加される方に！楽しくデジタル技術に触れよう♪

イベント

ドローンでお菓子作り

運営 コアット

ドローンを触るのが初めてでも大丈夫。スタッフが操作方法をサポートするので、小学生から安心して楽しめます。
※対象：小学3年生以上

イベント

親子でワクワク！AIとつくるオリジナルカレンダー

主催 be-smiling

無料ツール「Canva (キャンバ)」で
カレンダーを作りましょう！



イベント

デジタルで遊んでAIカード体験 ※予約不要

運営 PCN武生

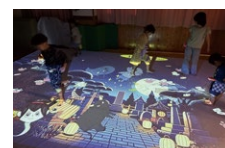
IchigoJamで作った体験型のゲームで遊んでみよう。
生成AIで写真からAIカード画像を作成してみよう。

イベント

デジタルアートを体感しよう！ ※予約不要

運営 越前市ぶらぶらぼ

キミが描いた新幹線が夜空を走る！
お化け退治ゲームも登場！

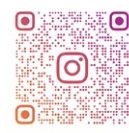


開催イベントの情報は順次【追加・更新】していきます。

最新情報や参加申込はこちら

クマンドウ デジタルライブ2026特設サイト

<https://www.fisc.jp/kumadigifes/>



KUMANDO_DIGITAL_ALIVE



企業の魅力と一緒に発見し、外部へ発信する仕組みづくりを

北國銀行のグループ会社として企業のコンサルティング事業を行う、(株)CCイノベーション。石川県を拠点としながらも、「北陸全体の企業成長に貢献したい」という思いから、2024年より当イベントに参加してきました。10月9日のセミナーにご登壇いただく、同社コンサルティング部の登 奨信氏にお話をうかがいました。



同社HPはこちら！



DATA

株式会社CCイノベーション

所在地：石川県金沢市広岡2-12-6

代表者：今井 豊

事業内容：経営戦略策定、事務効率化、ICT活用、人事制度・研修、マーケティング・ブランディング戦略策定、事業承継・M&A、海外市場調査及び販路開拓など

連絡先：076-223-9860

URL：https://www.ccinovation.co.jp/



登 奨信氏

企業の発展を通して地域全体の活性化を

2021年に設立された同社は、北國銀行で経営戦略やDX、人材育成、海外進出などの支援を担っていたコンサルティング部から独立した組織です。近年ではAI活用や、マーケティング、ブランディングなど企業が抱える多様な経営課題も幅広く支援しています。

今回、登壇する登氏はマーケティング戦略やブランディングを専門にしており、セミナーの内容は「デジタルマーケティングの活用について」です。「デジタルマーケティングは『手段』であって『目的』ではありません。単にSNSやホームページに力を入れるのではなく、何のためにそれを実行するのか。企業における課題や戦略を明確化してから、資金や人などの限られた資源の中で優先順位をつけることで、効果的に実現できるということを順序立ててお話しします」と登氏。目的明確化の重要性を十分に伝えたうえで、最新情報や人手不足

へのアプローチ事例などを説明したいと付け加えます。

県内で同社のセミナーを開けるのは当イベント限り

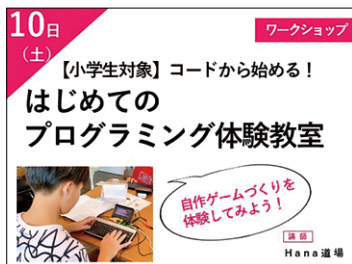
同社は、当イベントでは2024年に北國銀行グループの事業紹介を行い、2025年には女性のITキャリアをテーマとしたセミナーを開催。今後も取引先企業への情報発信の機会として、石川県内を中心にセミナーを展開し、福井県内でも支援の裾野を広げ、北陸エリアの企業との接点をさらに深めていく方針です。

約10年前よりデジタル施策の内製化を進めてきた同社グループ。Web広告をはじめとするデジタルマーケティングの手法や成果分析、改善点の抽出、予算設計に至るまで、実践を重ねながら着実にノウハウを蓄積してきました。「自社グループで実行してきた知見をもとに、現在ではお客さまへのご支援につなげられるようになりました。私たち自身も、知識が十分ではなかった時期から試行錯誤を重ねて

きたからこそ、企業様と同じ目線に立って伴走支援していきたい」と登氏は意気込みます。「我々は地方銀行の中でも比較的早い段階からデジタル施策に取り組んできたと自負しています。一方で現代は変化が非常に速く、これまで有効だった手法が、そのまま通用し続けるとは限りません。お客さまに本当に役立つ支援を提供するためには、私たち自身が常に学び、実践し続ける必要があります。これまで培ってきた知見に、最新の情報や事例を掛け合わせながら、地元企業様に還元できれば」と、力強く締めくくりました。



自社でも定期的にセミナーを開催



プログラミングで 地域活性化に挑む

2012年に鯖江市で設立された(特非)エル・コミュニティ。同法人では「地域の担い手育成」と「場の提供」という2つを主軸に鯖江市の地域活性化に取り組んでいます。10月10日に小学生向けのプログラミング教室を開催する同法人の代表 竹部 美樹氏にお話をうかがいました。



DATA

特定非営利活動法人エル・コミュニティ

所在地：鯖江市旭町1-6-6

代表者：竹部 美樹

事業内容：地域活性化のための企画の支援事業

連絡先：080-3048-0087

URL：https://www.l-community.com/



代表 竹部 美樹氏

外資系IT企業の支援を受け、 発信拠点を創出

もともと、東京のITベンチャー企業に勤務していた竹部氏は、帰省したときに感じた「地元で活気を取り戻したい」という想いから、2008年に「鯖江市地域活性化プランコンテスト」を始めます。2012年に同法人を設立し、2015年には現拠所の「Hana道場」を開設しました。

「子供たちにプログラミングを教えるだけでなく、自由な創作活動を通して、ものづくりの楽しさに触れてほしい」と開設した経緯について話す竹部氏。同拠点は、会員制などの制約もなく、IchigoJam（プログラミング



グ専用のこどもパソコンやレーザーカッター、3Dプリンターなどの使用に関して、20歳未満の利用者にすべて無料で開放しています。

今年で6回目の開催 親子連れの人気を集める

同法人は、当センター主催のイベントに「Hana道場」として2021年から継続して参加しています。「テレビやスマホのように完成された電子機器に囲まれて育った子どもたちが、自分で命令式を組んで電気が点いた瞬間に喜ぶ姿が印象的です」と話す竹部氏は、近年では地域のショッピングモールや中学校、公民館でも「出張Hana道場」を開催するほか、大手IT企業のファミリーデーにも協力し、子どもたちへのプログラミング教育を精力的に推進しています。

道場では独自の教科書を作成し、毎年作品コンテストを開催。子どもたちが意欲的に学べる環境づくりに尽力しています。プログラミング教室の発展版として、福井県警と

協力した体験型サイバーセキュリティ教育プログラムを実施するなど、IT教育の取り組みをますます加速させる同法人。小学校から通い始めた子どもたちが大学生や高専生となり、講師役として活躍する姿も見受けられ、今後も地域の担い手育成と場の機能を發揮していくことが期待されます。

竹部氏は「ものづくりに興味がある子であれば、ぜひ参加してほしい。プログラミングができなくても知識として持っているだけで全く違う。一度体験して自分の可能性を確かめてほしい」と門戸を広く開いています。



プログラミング教室の様子



代表 齋藤 陽士 氏



A-I活用でリペア市場に挑む 年商100億円を目指す戦略

フエニックス株式会社

福井市のフエニックス株式会社は革製品の修復サービスを行っています。職人の手技とA-Iの先進テクノロジーを使い、リペアして再販する育成モデルを立ち上げ、同社は今、年商100億円というビジョンを持っています。代表取締役社長の齋藤陽士氏に、A-Iを活用した取組みと将来の展望をお聞きました。

職人の育成と収益化につながつたリペア物販

創業者の父とともに事業を拡大したクリーニング店を売却し、齋藤氏が生き残りの手として着目したのがブランドバッグなどの「革修理（レザーリペア）」でした。革修理の技術を学んだ齋藤氏は、インターネット受注の「革修復どっとコム」を開設。「地方の小規模店だから素早い方向転換ができ、今がある」と振り返ります。

ネットでの受注は順調に増えたものの、修復する職人不足という壁にぶつかります。ハイブランド品のリ

ペアであること、顧客の強い思いが宿る一点ものを扱うプレッシャーから離職するスタッフもいました。そこで齋藤氏は練習用としてオークションサイトから傷や汚れのある中古ブランド品を約50万円分仕入れ、「失敗してもいいから自由に練習してみろ」と新人に渡したところ、職人たちは伸び伸びと技術を磨き製品をよみがえらせました。さらに、その修復品を市場で再販したところ利益が発生。「職人の育成」と「自社の収益化」がつながった瞬間でした。

このリペア物販事業が右肩上がりに。顧客からの修復依頼だけでなく「自社で仕入れて修復・販売する」



リペア後



リペア前

ブランド革修復専門
革修復どっとコム

フェニックス株式会社

所在地：福井市大宮1丁目11-27 清水ビル3F

代表者：齋藤 陽士

事業内容：レザー製品修復業、靴修理工房の運営、
レザーリペア習得支援、リペアサービス
系通販システムの提供

従業員数：15名

連絡先：0776-25-3077

URL：https://repair-phoenix.com

同社HPは
コチラ！



ビジネスモデルとなって売上は急成長。2025年決算では10億円を突破し、今期は15億円超を見込むほどの成長となっています。

画像診断をAIで自動化 職人が技に集中できる現場

齋藤氏は大事な品物を修復するサービスの見直しに着手します。「お問い合わせが来ると、送られてきた画像を見て、ブランド名、形式、年式、色を判断して返信する作業があります。莫大な人的エネルギーをとられていました。つまり、受注前のやりとりにも時間も費用もかかっている状態です。ここを自動化できれば、職人は手作業の修復や技術の向上に時間を費やし集中できるのでは、と考えました」。

そこで地元のIT企業と連携し「画像認識AIによる自動見積もり作成システム」の開発に着手しました。顧客から送られてくる画像に対し、AIが「破れ」と「ほつれ」などの破損部分を正確に見極め、最適な返信文面や見積額を自動提示するシステムです。経験の少ないスタッフでも問い合わせ対応ができるよう、これまでの事例のテキストをも

とに返信をするシステムは運用しているものの、まだAIのアップデートを重ねており、完成には至っていませんが、学習を重ねることで精度を高めさせる検証の段階です。

「顧客対応の初期段階を自動化し、現物診断・修復作業の工程へシームレスにつなげるのが狙いです。AIには得意な診断を、人間がAIにはできない修復の技で特化させたい。大企業には真似できない当社の強みです」と語ります。

年商100億円に向けて ぶれない4軸を持つ

同社は現在、中小企業庁の「100億宣言」に登録し、2035年までに売上高100億円を達成するという目標を掲げています。リペア・中古販売市場（約3.1兆円規模）は、景気に左右されない市場でもあります。そこでの戦略は「仕入れ・職人育成・バイヤー育成・物流」の四軸です。また、新社屋建設を予定しており、在庫保管設備と修復士の研修スペースも確保していきます。「古物市場できれいな品を競り合う大手には、資金力で勝ち目はありません。私たちの狙い目は、大手が見向きもしない、

汚れや傷があつて値が上がりにくい品です。それを相場より安く買って、丁寧に手入れをし、適正な価格で売ります」と齋藤社長。ビジネスモデルが走り出している今は、組織体制と環境整備を掲げながらも、決して欲を出さず、地道な作業に価値を加えていくことが大切だとも語ります。

街のクリーニング店から、職人技とデジタルをハイブリッドさせたリペア企業へ。「モノに感謝を。ヒトに感動を。」と理念に掲げ、モノを再生させて新たな価値を次世代につながる同社の事業は、まさにこの理念の体现そのものと言えます。

- 大分類を編集・追加する - チャットやり取り - 画像追加文書送付：定型・仕上り - 現物診断が必要・状態・素材の確認が必要 - 修理不可能：最新 - ルイヴィトン専門（色々） - ルイヴィトン：トアル地 - グループ（クレンジング・染め直し関連） - オールレザー染め直し	- 中分類を編集・追加する - 全体的メンテナンス - テンプレートを追加する ■定型：染め直し ●全体的に状態が良く部分的に色褪せが複数あり：料金の工程を変更 ●色合いが遠くなる可能性 経年変化の色合い濃淡あり ※社内メモに【色合いが元のようにならない】 ●グリーニング風・グリーニング感を残したい ●グリーニング風シワ感や透明感（ミョウミョウ・バレンシアガ） ●表面劣化：色移りやべたつき感、くすみ ●傷の凹みや完全な割れ（輪郭の痕が残るようなケース） ●表面（傷の様な色合い） 染った色合いになる ●修理に色褪せ・革が見えて白っぽい状態（ブラックのみ）2度染め ●クリーニング希望 全体的に状態が良い場合 クレンジングで色落ちバージョン ●状態が悪い ●塗装されている ●パール系の色 ●表面の汚れ、割れ ●部分色褪せなど全体的に色褪せが必要 ●元の色合いが出せない可能性：エルメス極色 ※社内メモに【色合いが元のようにならない】 ●元の色が難しい可能性 ※社内メモに【色合いが元のようにならない】 ●メタリック系（シルバー・ゴールド系など）
---	--

開発したシステムの返信テンプレートの一部

よろず支援拠点 経営Q&A

飲食店がテイクアウトを行うために 検討すべき諸条件

2027年4月からの軽減税率引き下げ（8%から1%へ）に伴う店内飲食との価格差拡大を見据え、テイクアウト導入を検討する飲食店から相談がありました。今回は、導入における実務・税務や収益改善の条件を整理します。

◆まずは現状の営業許可を確認し管轄保健所へ相談を

飲食店がテイクアウトを開始する際、最初に確認すべきなのが既存の営業許可の条件です。通常の飲食店営業許可だけで、全ての弁当や惣菜を自由に販売できるわけではありません。

店頭での「持ち帰り」は原則追加の許可不要ですが、弁当を大量製造して配送販売する場合や他店舗へ卸す場合、真空包装・レトルト加工をしてECで全国通販する場合などは、必要な許可や施設要件が異なります。例えば、長期保存用の冷凍惣菜の製造販売には「惣菜製造業」、生肉を味付けして冷凍販売する場合は「食肉販売業」や「食肉処理業」といった異なる営業許可が必要です。

基準は地域や自治体によって異なるため、メニュー案や厨房図面を用意し、初期段階から管轄の健康福祉センター（保健所）に直接足を運んで相談することが不可欠です。

◆食中毒を防ぐ徹底した温度管理と計画の作成

テイクアウトは店内飲食と異なり、調理から客が口にするまでに時間経過があるため、食中毒リスクが格段に高まります。特に気温の高い時期は菌が増殖しやすく、ご飯や肉、魚、卵、水分の多い惣菜、生野菜などは徹底した安全対策が求められます。

対策としては、調理した食品は速やかに放冷し「10℃以下に冷却」または「65℃以上の高温維持」をする温度管理ルールを定めることです。実際の冷却時は単に粗熱を取るだけでなく、加熱調理された副食（カレーや煮物等）について「2時間以内に中心温度を20℃以下、続く4時間以内に5℃以下に急冷する」ルールを設けることも効果的です。

また、「HACCPに沿った衛生管理」への対応も必須です。既存の自主的な衛生管理計画に冷却・盛付・配送時の管理といったテイクアウト用項目を追加し、計画の作成、実施、日々の記録と改善を徹底する仕組みを構築することが大切です。

◆商品の品質を守る容器選定と科学的な表示等

実務面では、テイクアウト商品を安全に届けるための容器選定や食品表示、税務管理も大切です。

容器は、汁漏れや油への耐性、結露防止、レンジ対応や強度の確認が必要です。また、安全に食べられる期限を科学的・衛生的根拠に基づいて「消費期限」として設定する必要があります。店頭で包装弁当を販売する際は食品表示基準に基づき、名称や消費期限、保存方法、主要アレルギー（卵、小麦、乳等）を正しく記載した食品表示ラベルを貼付する必要があります。正確な情報提供が顧客との信頼の基礎となります。

◆戦略的価格設定と店舗経営・税務実務の対応

経営面からは、軽減税率を見据えた価格設定が重要です。

例えば、店内飲食とテイクアウトで「税込価格を統一する」



相談の概要

コロナ禍には実施しませんでした。最近の消費税のニュースを見て、新たな戦略としてテイクアウトを検討してみたいと思います。条件等について教えてください。

か「税抜価格を統一する（税込を分ける）」かという価格戦略が必要です。税抜価格の統一は消費者の購入メリットが増しますが、税込価格を同額に据え置いて、税率低下分を店舗側の営業粗利益として内部留保する価格戦略も非常に有効です。

実務対応として、複数税率の同時決済に対応できるレジやPOSシステムの導入、適格請求書（インボイス）の発行体制整備が必須です。さらに、軽減税率への対応も現場の実務条件です。テイクアウトは消費税率が8%となる一方、店内飲食や酒類の持ち帰りは10%が適用されます。レシートに適用税率を明確に区分記載できる管理体制を整えておくことが大切です。

税務面では、全体の売上構成比の変動により、簡易課税制度のみなし仕入率の有利・不利が変化する可能性があるため、事前に税理士等の専門家へ相談し試算しておくことが必要です。

◆追加的費用の把握と店舗の事業採算性評価法

軽減税率の適用が、店舗の消費税負担を単純に減らすわけではない点に強く留意すべきです。納付消費税額は売上税額から仕入税額を控除するため、税率差が直接の節税になるわけではありません。

収益改善を図るには、導入に伴い発生する「追加的費用」を正確に把握する必要があります。具体的には、容器袋代や消耗品費、表示ラベル代、保温・保冷庫の設置や専用スペース確保にかかる追加設備投資費が挙げられます。さらに、袋詰め等の現場人件費、配達手数料や配送費、商品の売れ残り（食品ロス）リスクも考慮しなければなりません。これらを補填するため、店内と持ち帰りで税込・税抜価格をどう設定するかという価格戦略が最重要です。導入前に、追加コストを全て織り込んだ採算性を事前に試算しておきましょう。

◆まとめ

テイクアウトは気軽な販路拡大手段に見えますが、営業許可の確認や徹底した温度管理、HACCPへの対応、食品表示の作成、税率判定など、クリアすべき実務的条件は多岐にわたります。準備を怠れば、食中毒や法令違反などの深刻なリスクを招きかねません。取扱商品を整理した上で専門家や管轄保健所に相談し、安全な仕組みを構築して段階的に販売規模を広げることが成功の鍵です。

【紹介情報】（関連するホームページのURL）

- 福井県 食品営業許可（保健所相談窓口・オンライン申請等）
<https://www.city.fukui.lg.jp/fukusi/eisei/syokuhin/p025603.html>
- 消費者庁 食品表示法（アレルギー・原材料表示ガイドブック）
https://www.caa.go.jp/notice/assets/food_labeling_cms202_220615_02.pdf
- 厚生労働省 HACCPに沿った衛生管理の制度化について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179028_00002.html

お問い合わせ先



福井県よろず支援拠点

TEL : 0776-67-7402

E-mail : yorozu@fisc.jp





総合相談窓口を活用しよう！

「先代が営んでいた事業を守りつつ、環境変化にどう対応していくか」と、お悩みの後継ぎ経営者が増えています。総合相談窓口では、経営に不慣れな若手経営者に寄り添うよう努めています。

今回は、株式会社黒田米穀燃料の黒田拓哉社長に、お話を伺いました。



総合相談コーディネーターの大森 健です。
事業者さまの成長を願い寄り添い、時には厳しくが信条です。

事業計画を立ててみようと思って相談したら、会社の数字をどう見れば良いのかほとんど分かっていなかった。

今までは会計事務所任せきりで、「それで良いのか？」と思っていました。会計事務所から送られてくる資料の見方が分からないので、何も聞けずに。そうこうしているうちに、経営を引き継いで5年ほどが経っていました。事業計画を立ててみようと思って「ふくい産業支援センター」に問い合わせたところ、相談に乗ってくださったのが大森コーディネーターでした。

在庫の考え方・顧客別収益管理の仕方など、社長として学ぶべきことを基礎から分かりやすく教えていただきました。



いろんなことを聞ける人が身近にいるのは、とても心強い！

相談後フォローアップもしてくれるので、いろんなことを思い出しますし、自分なりに考えることで、聞きたいことが次々出てくるようになりました。そうした自発的な気づきが経営には大事だと考えています。

街の米屋として地元の米を地元で売ることを継続する覚悟

美味しい米作りにこだわっている生産者の気持ちに寄り添って、販路を拡大していく方針です。

それを実現するために、あらためて事業計画を練り直し実践し、街の米屋としての存在感を高めていくつもりです。



企業情報



株式会社 黒田米穀燃料

【住所】 鯖江市三六町2丁目1-13 【TEL】 0778-51-1232

～「お米を売る」から「お米を選ぶ」お手伝いへ～

「このお客様には、このお米が合う」と考えながら商品をご提案しています。生産者様の想いをお客様へ届けるとともに、お客様に「黒田米穀燃料に相談してよかった」と思ってもらえる米屋を目指します。



HP



Instagram

経営に関するお悩みごとは「総合相談窓口」まで、お気軽にご相談ください！



☎ 0776-67-7421

【相談日時】 月曜日～金曜日 9:00～17:00

【相談場所】 福井県産業情報センター3F 総合相談窓口
(坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16)

※コーディネーターの当番日は右記の総合相談窓口HPからご確認いただけます。事前予約の方優先の対応となりますのでご予約をお勧めします。

ZOOMでのオンライン相談にも対応

相談予約はこちら



業務の自動化から始まるDX 見える化で育つ改善する組織

今回は、見積業務の自動化や工数の見える化を進め、業務効率化だけでなく、社員自らが改善を考える組織づくりにつなげているシンコー電業株式会社（福井市）の事例をご紹介します。

人手不足や手作業による業務負担をきっかけに、身近なデジタルツールを活用した業務改革に着手。見積業務の自動化や工数の見える化を進め、大幅な時間短縮とミス削減を実現するとともに、社員が自ら改善を考える組織へと変化しています。

人手不足とアナログ業務をきっかけに 社長自らDXに挑戦

同社は、住宅関連や太陽光発電を得意とする電気工事会社です。以前は、図面上の記号を目視で数え、集計結果を見積ソフトに手入力するなど、多くの作業を人手に頼っていました。小規模案件を数多く手掛ける中、総務担当者が現場スタッフをサポートすることも多く、業務の標準化や効率化に取り組む時間を確保しにくい状況に。さらに、稼働率や利益率などの集計も年1回にとどまり、現場の状況をタイムリーに把握できないことが課題でした。そこで渡邊社長自らが講座などで学び、業務の自動化と見える化に取り組み始めました。

身近なツールを組み合わせ 見積業務の自動化と工数の見える化

まず取り組んだのが、見積業務の自動化です。汎用CADソフトを活用して図面上のシンボルを自動集計し、そのデータを見積ソフトへ連携。これまで手作業だった一連の工程を大幅に省力化しました。さらにGoogleスプレッドシートを使い、案件ごとの工数や移動時間、現場訪問回数などを顧客別・担当者別に見える化。進捗状況を社内モニターに表示し、社員同士が互いにフォローしやすい環境も整えました。Google Chatなど既存のツールも組み合わせながら、情報共有や発注業務の効率化へと取組を広げています。



従来は図面上のシンボルを蛍光ペンなどで拾い出して集計していたが、汎用CADソフトを活用して自動集計。見積ソフトと連携し、作図から見積作成までの一連の作業を自動化した。

75分の作業が5分に 見える化から生まれた改善する組織

取組の結果、図面作成後の見積作業は約75分から約5分に短縮し、手入力によるミスもほぼゼロに。見積提出にかかる期間も3日から1日に短縮するなど、顧客への対応力も向上しました。こうした目に見える成果によって社員の意識にも変化が生まれ、現在は月2回、業務フローを見直す時間を設け、現場から改善案が出るようになっていました。一方、数字は社員を評価・比較するためではなく、より良い働き方を考えるために活用。今後は社内でも生まれた成果を顧客へのサービスや情報提供にも生かし、顧客とともに価値を高めていくことを目指しています。

会社概要

シンコー電業株式会社

業 種：住宅電気工事、電気通信設備工事、空調設備工事、エネルギー関連事業など
所 在 地：福井市三尾野町29-2-6
H P：https://shinko-electro.co.jp/



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター ベンチャー・DX推進部

TEL：0776-67-7411 E-mail：dx-g@fisc.jp

事例Web▶
https://dxfukui.jp/case/



ヘルスケア・医療機器開発展に 福井県ブースを出展

(公財)ふくい産業支援センターは、福井県内の優れたものづくり技術を国内外へ発信し、県内企業の販路開拓を支援するため、ヘルスケア機器・医療機器の開発や製造技術が一堂に会する展示会「第17回ヘルスケア・医療機器開発展」に、福井県ブースを設け、県内企業5社と共同出展しました。

『第17回ヘルスケア・医療機器開発展』

【会 期】令和8年7月1日(水)～3日(金)

【会 場】東京ビッグサイト (東京都江東区有明3-11-1)

【主 催】RX Japan株式会社 【来場者数】81,697名 (日本ものづくりワールド全体)

「福井県ブース」出展内容 (共同出展者：5社)

企 業 名	主な展示製品、技術
イーゲート(株)	・遠赤外線機能を持つ「光電子®」×丸福ガーゼ ・被服内環境を整えるコンディショニング素材
三和メッキ工業(株)	・タフカラー・30<アルミ材表面処理/着色硬質アルマイト特許取得>
(株)SHINDO	・シリコーンニットゴム、薄く柔らかい面ファスナーテープ ・ブラシ材料
セーレン(株)	・フレキシブル導電素材：METAFLEX (メタフレックス) ・シルクタンパク質：ピュアセリシン
(株)ミテック	・セラミックス接合加工技術「CeraJoiーセラジョイ®」 ・超硬合金接合技術「WEARESICーウェアレジック®」 ・ダイヤモンド接合加工技術「DiaComーダイヤコン®」

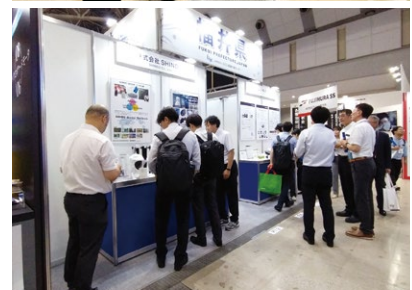
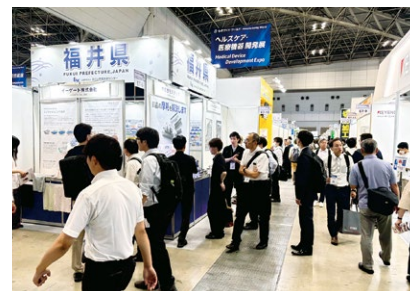
出展者からは、
「多くの来場者に賑わう中で、様々な業種の方々にアピールすることができた。」

「良い意味で異業種の方との接点が多く、提案素材の異分野への転用等の話もあった。」などのコメントをいただきました。

今回の出展は、出展各社とも多くの来場者と交流し、後日の見積・試作につながる依頼数が増えるなど、今後のビジネスに直結する場となりました。

「ヘルスケア・医療機器開発展」は、10以上の専門的な展示会が一つの会場で行われる日本最大級の展示会「ものづくりワールド【東京】2026」(出展社数2,109社、来場者数約82,000名)の中で開催され、「機械要素技術展」に隣接しています。これらの展示会場の間には壁もなく、来場者がスムーズに各エリアを行き交うため、ヘルスケア関連が目的で来場された方はもちろん、「機械要素技術展」に訪れた来場者も自然に福井県ブースに立ち寄られ、多様な出会いやビジネスチャンスの広がりにつながっています。

FOIPでは、ヘルスケアをはじめとした重点支援5分野で、展示会の出展などを通じて県内企業の技術開発や製品開発を支援していきます。



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター オープンイノベーション推進部

TEL : 0776-55-1555 (担当：須谷、三谷)



GOOD
DESIGN

GOOD DESIGN THINKING #68

グッドデザイン賞を受賞した福井の企業を紹介するコーナーです

2025 グッドデザイン賞 + ヒトマメ



Company

株式会社ハッカ / 山一食品株式会社

Category

商業施設

+ヒトマメは、福井県勝山市のきざみ油揚げ製造業・山一食品による新規事業である。地域との接点となる豆乳カフェを通じて大豆文化を発信し、企業の魅力を高めることを目的としたプロジェクト。雄大な勝山の大地に、雪に呼応し、人々をやさしく包む大屋根を架け、地域の風景の一部となる建築をめざした。

経緯とその成果

ひと冬のなかで何回も雪下ろしをする慣習がある雪深い勝山では、豪雪に耐える大きな屋根を持った家屋が山あいにはびこっている。「+ヒトマメ」はその風景のひとつになることをめざした。寄棟のボリュームは地表面の雪と屋根雪が繋がらないよう軒先を高くした。軒下空間は奥行きを深くして堆雪と窓の間に空隙をつくり、積雪荷重により窓が破損することを防いでいる。夏季は店舗内への直射日光を遮り、涼しげな日陰をつくりだす。この軒の操作により、通年で閉塞感なく、快適で安全な店舗運営が可能となった。内部には柔らかな大豆色の大きな気積のワンルーム空間が広がる。頭上の座屈止めの鋼材は、柱材寸を120mm角に抑え、空間におおらかな印象を与えるとともに、床の御影石のラインと相まって空間を緩やかに秩序立てている。創業より丁寧に大豆を扱ってきた山一食品に相応しい、大豆食品とその食文化を志向する建築をつくることができた。

Point

1. 雪深い勝山で失われつつある原風景を想起させる大きな重い屋根のシルエット
2. 堆雪、落雪、除雪など雪にまつわる多様なふるまいに呼応する、高く持ち上げた軒先と奥行き深い軒下
3. 大豆食品とその食文化を志向するための、柔らかく、おおらかな、包容力を醸すインテリア

審査委員コメント

福井県の食品会社が新規事業としてとりくんだ豆乳カフェである。全体としてシンプルな建築だが、かるやかな柱とは対比的な大きな寄棟の屋根のヴォリュームが、清々しく、大きな特徴になっている。これは勝山の積雪に耐える家屋の原風景を想起させるものだという。実際、この屋根と奥行きが深い軒下の空間は、環境のコントロールに役立つ。夏は直射日光を遮り、日陰を生み出す一方、冬は堆積する雪の被害を受けないことが意図された。すなわち、現代の民家でもある。

審査委員：成瀬 友梨、五十嵐 太郎、色部 義昭、丸山 優子

健康経営に取り組んで、知事賞などの受賞を目指しませんか？

「健康経営®」とは、従業員の健康づくりに取り組むことで、活力や生産性の向上を図り、企業の業績向上につなげる取り組みです。

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

県では、健康経営の普及啓発に取り組んでおり、健康経営に取り組む事業所を「ふくい健康づくり実践事業所」として認定しています。認定事業所はロゴマークを使用でき、人材確保等で事業所のアピールも可能となります！

さらに、「ふくい健康づくり実践事業所」のうち、特に優れた取り組みを行い、他事業所の模範となる事業所には「知事賞」などを授与しております。年度末に予定している表彰式では、自社の取り組みをアピールできる場も設けておりますので、積極的なご応募をお待ちしております。

応募要件 ふくい健康づくり実践事業所（表彰応募と同時に申請書を提出した事業所を含む）で、表彰式（令和8年度末）において取組みを発表できる事業所

募集期間 令和8年10月16日（金）まで

応募方法 「ふくい健康づくり応援サイト」（右記の二次元コード参照）から様式をダウンロードの上、提出してください。



お問い合わせ先

福井県健康福祉部健康医療局 健康政策課
TEL : 0776-20-0352
E-mail : kenko-seisaku@pref.fukui.lg.jp

県地域おこし協力隊

9月1日から

ふくい女性活躍企業プロモーターが活動を開始しました！

ふくい女性活躍企業プロモーター 河野 綾華さん

県では、県内企業・団体等における女性活躍推進をさらに後押しするため、新たに「ふくい女性活躍企業プロモーター（地域おこし協力隊）」を1名委嘱しました。

主な活動内容

01 取材・情報発信

女性活躍・働き方改革の取組みを取材し、SNSやWebメディアで魅力や工夫、ロールモデルとなる人材の声を発信します。



02 企業間ネットワーク構築

企業同士のマッチングや、視察コーディネーター、座談会などの企画・運営を通じて、企業が刺激し合える場づくりをサポートします。



企業・関係機関の皆様へ

取材・発信のご希望、その他依頼事項を広く募集します！

女性活躍・働き方改革の取組について、広く外部へ発信してほしい企業・団体を募集します！その他、イベント・企業間交流会等の企画・実施のご依頼、ご相談などもお気軽にお寄せください！

訪問希望やご依頼はこちらから！



お問い合わせ先

福井県未来創造部 女性活躍課
TEL : 0776-20-0319
E-mail : joseikatuyaku@pref.fukui.lg.jp

本誌「F-ACT（ファクト）」を活用してPRしよう！

企業情報メール便



販路開拓のチャンス！
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便（チラシ同封サービス）を毎月実施しております。配送先は、県内事業所約1,800社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



次回VOL.80

11月25日発行予定

提出締切：11月12日
チラシ1,800部をご提出
（持参または配送）ください。

ご利用を検討する方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき10者程度受け付けております。なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先

（公財）ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部 F-ACT担当
TEL : 0776-67-7425 E-mail : kouhou-g@fisc.jp

同封するチラシ・パンフレットのサイズ		料金（税込）
料 金	A4判以下のチラシ	9,900円
	A4判超～A3判以下のチラシ （二つ折にしてA4判以下のサイズにすること）	13,200円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

本誌に関するお問い合わせは



公益財団法人 ふくい産業支援センター

One to Oneサービス推進部

TEL : 0776-67-7425 / E-mail : kouhou-g@fisc.jp

〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16（福井県産業情報センタービル内）

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

本号では、毎年恒例のKUMANDOイベント号として、DX（AX）に取り組む事業者様やイベント出展者様に取材してまいりました。今回の取材では、AIを活用する事業者様が多く見受けられたのですが、AIヘデータを学習させ、パターンを取り込ませることにとっても長い時間を費やしていました。AI活用といえども自社作業に置き替えようとすると長い準備期間が必要であり、数年先を見越した取組みが重要だと実感しました。

取材にご協力いただいた皆様、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

また、今年度のKUMANDOイベントは「クマンドウデジタルアライブ2026」と題し、10月8日～10日にかけて開催いたします。当イベントが新たな発見や気づきにつながれば幸いです。

次号の発刊は11月25日です。引き続きご愛読のほど、よろしくお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまで

E-mail : kouhou-g@fisc.jp

支援機関と連携した充実のサービス 中小企業の成長を支援します!



中小企業の未来を支える、知識と情熱の結集

中小企業診断士は経営コンサルティングの唯一の国家資格です。福井県中小企業診断士協会は、中小企業の経営を支援・成長を促進する専門家として活動する中小企業診断士のネットワークで、地元の支援機関・金融機関・自治体と連携し、幅広い知識や能力を活用することで、中小企業の未来を支えています。

中小企業診断士協会は**経営の総合病院**
様々な分野の専門家集団が
全力でサポートします。

▼ こんなお悩みやご相談に ▼

経営全般	財務改善	生産性向上
経営戦略	販路開拓	IT・DX戦略
人事労務	補助金	事業計画

☎ コンサルティングのご相談

お電話・メール・ホームページよりご連絡いただくか、下記連携先機関へご相談ください。



一般社団法人
福井県中小企業診断士協会

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 福井県産業情報センタービル3F
FAX.0776-67-7429

☎ **0776-68-0170** 平日 9:00-17:00
✉ **info@sindan-fukui.jp**



福井県中小企業診断士協会 🔍

ホームページはこちら

連携先

福井銀行／福井信用金庫／越前信用金庫／敦賀信用金庫／小浜信用金庫／福井県内各商工会議所／ふくい産業支援センター／
福井県信用保証協会／福井県商工会連合会／福井県内各商工会